

獨協医科大学

学長挨拶

学長 稲葉憲之

本学はさかのぼれば1883年に設立された獨逸学協会学校と、古き良き伝統に裏打ちされた医科大学である。

大学病院は1167床を擁する我が国屈指の大病院である。栃木県の医療の中核であり、県全体に20分で到達できるドクターヘリの活用がそれに拍車をかけている。また723床を擁する越谷病院は埼玉県の医療の要であり、さらに200床が県と市の要請で予定されている。さらに、日光医療センターは199床である。

以上3大病院に加え、北関東全体をドクターヘリでカバーする「救命救急センター」、妊婦・出生児のための「総合周産期母子医療センター」、「とちぎ子ども医療センター」もあり、これら複数の診療科を連携させ、一大メディカルセンター化する試みも進んでいる。

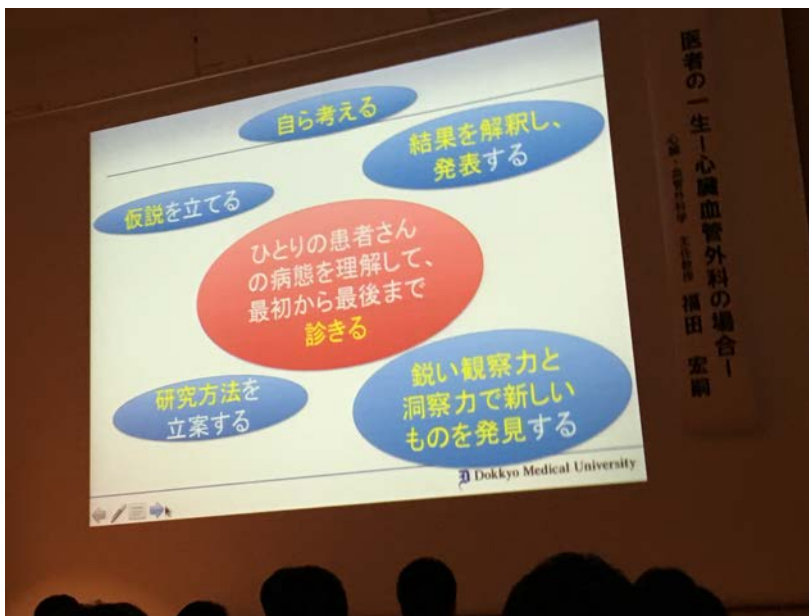
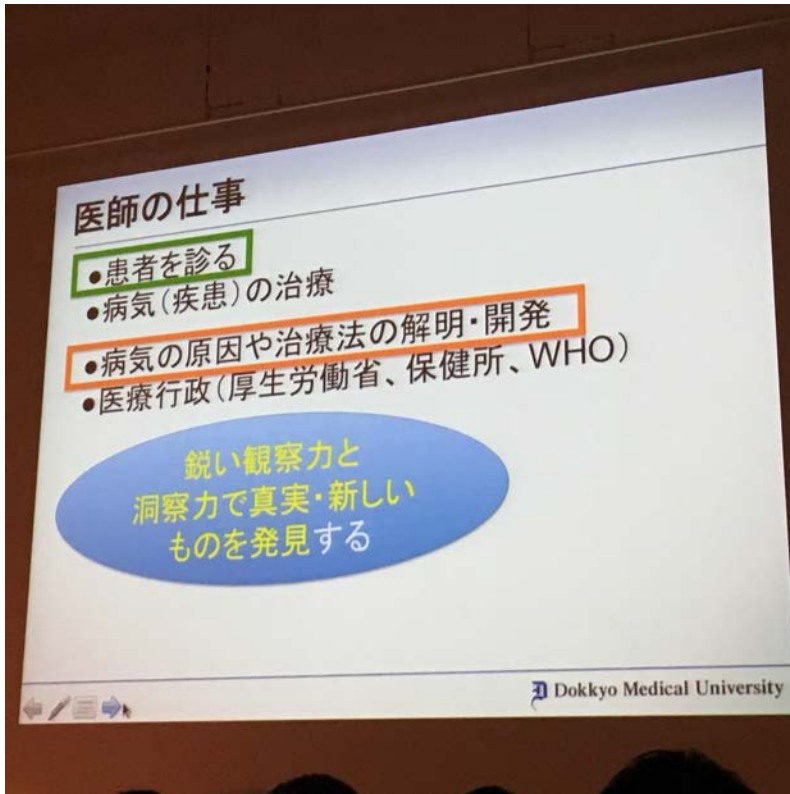
本学は海外の多くの医学大学と学術交流協定を結んでいる。**海外大学との交流には特に力を入れている**。卒業後は多くの医師が海外に留学し、また海外からも多くの研究者を迎え入れている。

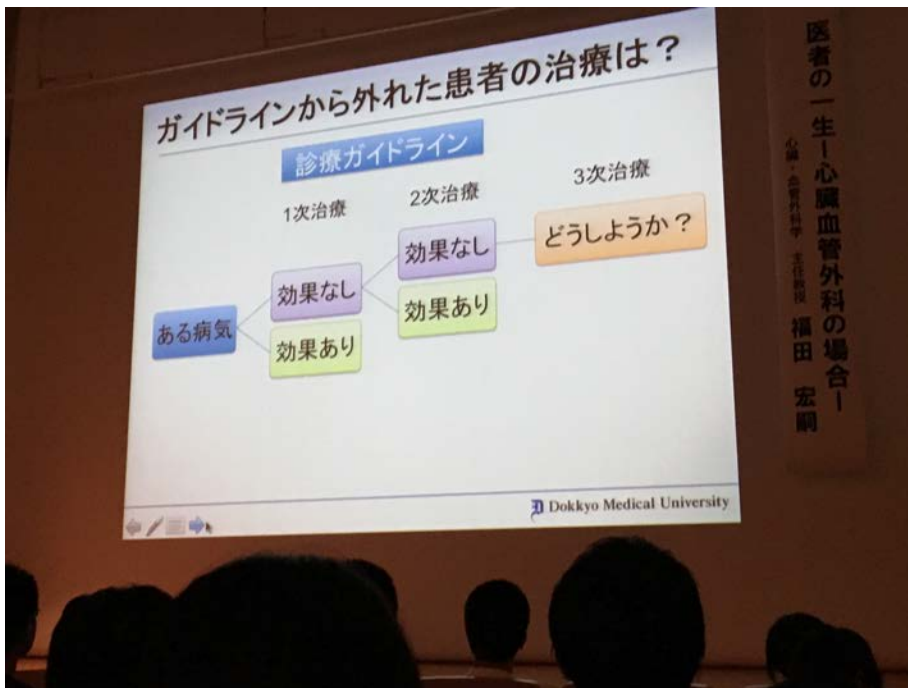
コツコツやっていたらあとで大きな差が出てくる。着実に医学の道を歩んでくれる人に門戸を叩いて欲しい。

医学講演

心臓・血管外科学主任教授 福田宏嗣→緊急オペのため講演中止
代役 泌尿器科教授 釜井隆男

医師の仕事とは？

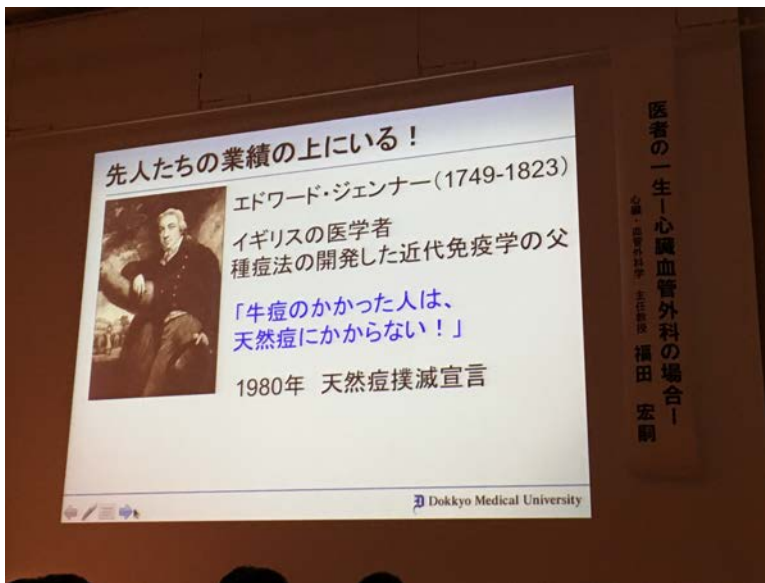




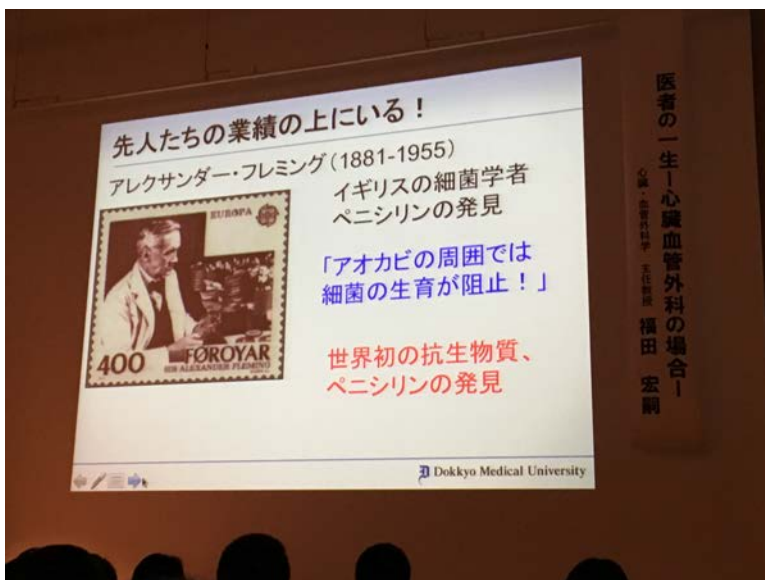
ガイドラインから外れた患者の治療はどうするのか？ガイドラインしかやらないなら、医師はいらない。人工知能がやれば良い。患者に寄り添った上での治療が必要。

自ら考えるために

- 研究テーマは自由な発想から生まれてくる
- 仮説を立てる
- 研究方法を立案する
- 鋭い観察力と洞察力で新しいものを発見する
- 若造の時は器用な人間が得をするかもしれないが、真価が発揮されるのは40代から。コツコツやっていたら必ず大きな差が出てくる。
- 頭の良い奴が良いわけではない。仕事は「教えてもらう」ことが必要。大いに質問して、かわいがってもらわねばならない。そのために、道徳や態度が大切。



医者の一生―心臓血管外科の場合―
心臓血管外科 主任教授 福田 宏嗣

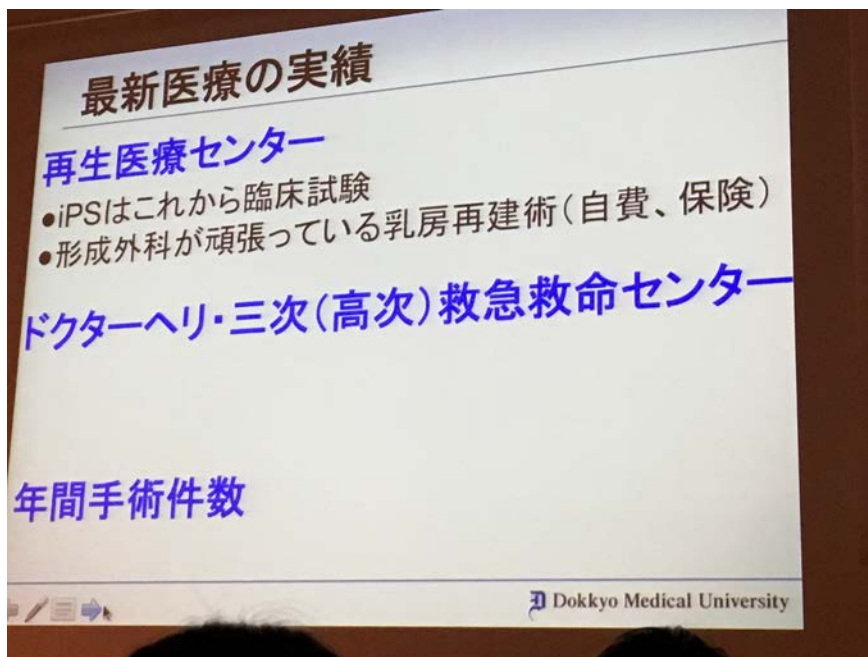


医者の一生―心臓血管外科の場合―
心臓血管外科 主任教授 福田 宏嗣

フレミングやジェンナーは自分のやったことを論文にして発表している。学会での発表は個人の業績になるが、それより世界の共有財産になる。世界のガイドラインはすべて論文にもとづいている。そして、本大学が認定されている特定機能病院の評価は、英語の論文の数で決まる。

世界に論文で研究成果を発表できるような高い志を持ってほしい。

いろいろな治療法があるが、基礎系・臨床系関連との協力・協調体制によって、医療水準の向上につながる。和を重んじるチーム医療、医師として人間的な成長形成の場が生まれる。いかに医師として世界に貢献できるか、考えて欲しい。



うちはとにかくベッド数が多い。外来患者が多い。だからといって安泰ではない。最近で言えば、東京女子医大と群馬大学が特定機能病院から外されてしまった（原因は医療事故とその隠蔽）。群馬大学は国立なので税金で補填されてしまう。私学がいかにかびしいか。患者数の増大、医師の実力向上、受験生の増加、それによって獨協医大を発展させていきましょう。

医学部紹介

建学の理念

- ・ 人間性豊かな医師並びに医学者の育成
- ・ 能力の啓発に重点を置く教育方針
- ・ 地域社会の医療センターとしての役割の遂行
- ・ 国際的交流に基づく医学研究

アドミッション・ポリシー

- ・ 広い視野を持ち適切かつ公正な判断ができる人
- ・ 他者の立場になって物事を考え行動できる人
- ・ 自ら問題を解決する意欲のある人

- ・ 協調性とコミュニケーション能力のある人

本大学の特徴

- ・ 大学病院が隣接しているので、総合医として地域医療を包括的に学ぶことができる…人口600人の三依地区が無医状態であったが、日光医療センターが指定管理者制度によって診療所を運営し、無医状態が解消した。
- ・ グローバルな視野の獲得を目指して海外研修を積極的に行っている

カリキュラムにおける本大学独自の特徴

- ・ 1年のコミュニティヘルスインターンシップ (CHI) : 本学病院、社会福祉施設、地域病院の現場を体験する。一日の流れを理解し、出来る限り帯同する。患者やその家族と直接交流することで、相手の気持を理解して信頼関係を築くこと、地域医療の実際を学ぶことが目的。
- ・ 1年2年のPBLチュートリアル (Problem-Based learning) : チューター (教員) のサポートのもと、少人数で解決法を探る。グループ内で質疑応答し、最後に個人で発表する。
- ・ 4年の症例演習 : 症例の診断や治療といった解決法作を習得して、知識と実習生かのさらなる理解と定着を行う。共用試験 CBT、OSCE 突破に不可欠であり、5年BSL (Bed Side Learning) への準備となる。
- ・ 5年診療参加型臨床実習 (CCS) : 大学病院、越谷病院、日光医療センターにて、監督医師のもと、見学だけではなく、医療チームの一員として診療に携わる。

多角的な研究機構

研究試験センター : 基礎及び臨床各教室における研究を支援するための施設。

国際協力支援センター : 海外の大学・教育研究機関との交流及び国際協力事業を推進する施設。

(例) 途上国の環境衛生の向上のために化学物質による生体影響を調べる。

ウクライナのチェルノブイリ原発事故被災地域の疾病の調査や福島県二本松市に分室を解説し住民の被爆調査を実施する。

ドイツのミュンスター大学と交換留学生や特任教授派遣で提携する。

情報基盤センター：ICT（情報通信技術）の活用や支援をする施設。

実験動物センター：各種動物実験を適正に管理する施設。

RIセンター：放射線の安全利用の手助けをする施設。

以上